

令和 3 年度

看護管理学／看護体系・機能学分野  
基礎看護学教室

# 年報

2021 年 4 月 1 日—2022 年 3 月 31 日

## 目次

巻頭言	3
主な出来事	4
教室員	5
学部講義	7
看護学概論	7
基礎看護学Ⅰ	8
看護支援技術論	9
基礎看護学実習	10
看護管理学	13
看護管理学実習	14
基礎看護学Ⅱ（選択科目）	16
看護学概論Ⅱ（駒場：1・2年生対象）	17
大学院講義	18
看護管理学特論Ⅰ	18
抄読論文	19
看護管理学/看護体系・機能学ゼミ	20
学位論文	22
博士論文	22
修士論文	22
教員の活動	23
研究室業績（2021年1月～2022年3月）	25
原著論文・研究論文	25
総説・報告	26
学会発表	26
研究助成など	27
教室の出来事	29

## 巻頭言

### 7年間の感謝を込めて、新しい挑戦へ

現職に着任して7年が経ちました。ここまで務めることができたのも、研究室のメンバーや、研究や教員活動をご支援くださった多くの方々のおかげです。この場を借りて心より御礼を申し上げます。

病院看護管理者として9年を過ごし、研究活動にブランクがあった私は、ここで取り組む学問を定め、研究活動を再スタートするところからのスタートでした。最初の2年間は学術集会の開催に加えて、新カリキュラムへの対応や初めてのサマープログラムの開催、そして、大学院生の論文指導と、あっという間に時間が過ぎました。ようやく3年目に、私たちの学問を「看護の力をより効果的に患者に届け、社会に活かす方法を探求する学問」であり、「看護の視点や価値観を組織活動に活かすことを追究する学問」と定義し、この学問を定義し追究する者として、「患者、看護職及びその他の医療従事者、組織、社会—そのすべてとその未来に幸せ（well-being）をもたらすことを目指して、人や組織が潜在的にもつ力を最大限に引き出す仕組みや方法を明らかにする」ことを私たちの使命に掲げることができました。その後の4年間は、この使命の下、1. 様々なアプローチで複雑な組織現象を解明すること、2. 組織を発展／活性化させる“レバレッジ”を見つけること、3. 組織研究のための方法論を開発することに取り組みました。教員、大学院生それぞれ研究テーマは異なりましたが、共通の目的を胸に、看護管理学の開拓に取り組んでいることを折々に感じられました。

今年度、英文8本、和文8本の論文が採択され、7年間で英文48本、和文25本の論文を当研究室から発表することができました。そして今年度は、教員、大学院生ともに、学術集会や論文としてはもちろん、総説やシンポジウム、新聞やテレビ、オンラインセミナー、研修開催など、様々な媒体で様々な対象へ研究成果や研究者としての知見を還元することに取り組みました。現場への還元へのフェーズに入ったことをうれしく思いました。そして、学会や学術集会で表彰を受けたり、医療現場の方々からのフィードバックを受けて、私たちに取り組んでいる「看護管理学」が看護管理の現場に役立つという手ごたえを感じられたのも、今年度のうれしいできごとでした。

この7年間の一番の喜びは、多くの大学院生や若手教員の育成に関わることができたことです。今年も博士3名、修士1名が誕生します。7番目の博士も間もなく誕生する見込みで、1年後には私にとって最後の教え子が8番目の博士となるよう尽力したいと思います。この研究室を巣立った皆さんが、それぞれの場で新たな挑戦をして、未来の看護管理学を切り拓いていくことを心から楽しみにしています。

私は4月より東京大学医学部附属病院看護部長に就任することとなりました。この研究室で学んだことを活かし、公正で価値共創型の組織運営に努め、看護実践、研究、教育の連動を高めながらそれぞれの革新・充実を図り、社会に貢献していきたいと思えます。

これまでに皆さまからいただいたご支援ご厚情に心より感謝申し上げます。そして、これからも皆さまと新たな挑戦をしていきたいと思えます。当研究室は、次年度より北村 言 准教授が引き継いでくださいます。さらなる発展を心より祈念しております。そして、皆さまの変わらぬご厚情をお願い申し上げます。

令和4年3月23日  
准教授 武村雪絵

## 主な出来事

2021年4月

特任助教1名着任

2021年9月

特任助教（短時間）1名着任

2021年10月

学部研究生1名受け入れ

2021年11月

特任助教から助教へ1名異動

2022年1月

修士課程学生1名修士論文提出

2022年3月

准教授1名退任

特任助教1名退任

博士課程学生2名修了、2名満期退学

修士課程学生1名修了

## 教室員

### 准教授

武村雪絵

### 助教

市川奈央子

木田亮平

磯部環

### 特任助教

長井聡子（2021年9月～）

### 非常勤講師

井出恵伊子（東京ベイ・浦安市川医療センター 経営企画室 企画室補佐）

小澤茉祐（日本看護協会 教育研究部）

笥 淳夫（工学院大学 建築学部 建築デザイン学科 教授）

水流聡子（東京大学大学院工学系研究科 教授）

### 事務員

小川繁子

### 客員研究員

池崎澄江

奥山絢子

甲斐貴雅

川口倅左

菅野由貴子

國江慶子

駒形万里絵

佐伯昌俊

坂木晴世

佐々木美奈子

佐藤博子

寿々木剛志

長坂雄太

西川久仁子

船越千佳

森川みはる

吉里心希

渡邊龍之介

大学院生

博士課程 3年

石井馨子

蒋思思

田中慎吾

高橋好江

博士課程 2年

井上真帆

修士課程 2年

澤田菜

研究生

櫻井真秀子

## 学部講義

基礎看護学教室は、看護学概論、基礎看護学Ⅰ、看護支援技術論、基礎看護学実習、看護管理学・看護管理学実習、基礎看護学Ⅱ、看護学概論（駒場）を担当した。

### 看護学概論

講義題目 ／Subtitle	看護学概論
授業の目標、概要 ／Course Objectives/ Overview	看護の概要を理解し、看護の基盤となる価値観（人間観、倫理観、生命／生活／健康観）を学ぶことを目的とする。 看護を学ぶ上で基礎となる看護の構成概念（パラダイム）や機能を理解し、看護の諸理論、看護の対象や看護の実際について講義や討議を通じて学ぶ。 最終回は医学科・薬学部との学生との合同授業（Interprofessional Education: IPE）として、多様な価値観に触れ、自己の価値観を相対化し、自分と異なる価値観への受容性を高める。
授業のキーワード ／Keywords	日本語用 ／Japanese 看護学、看護の概念、看護の機能、看護理論、看護過程 英語用 ／English nursing, concepts of nursing, functions of nursing, nursing theory, nursing
授業計画 ／Schedule	10月5日(火) 看護とは 10月12日(火) 看護の提供者と対象の理解 10月19日(火) 看護を語る 10月26日(火) 看護過程 11月2日(火) 看護における倫理 11月9日(火) 多職種連携 (IPE) (医学科・薬学部との合同授業)・・・変更可能性あり 11月16日(火) 看護理論発表 ※非常勤講師の都合により、スケジュールが変更する可能性がある。 ※感染症の状況によって実習日時、内容が変更になる可能性がある。
授業の方法 ／Teaching Methods	講義、グループワーク、ディスカッション ※感染症の状況によって実習日時、内容が変更になる可能性がある。
成績評価方法 ／Grads Evaluation	出席状況と課題発表、レポートにより評価を行う。
教科書 ／Textbooks	各講義で資料を配布する
参考書 ／References	看護学概論 - 基礎看護学<1> (医学書院) 看護学概論 - 看護迫及へのアプローチ 第4版 (医歯薬出版株式会社)
履修上の注意 ／Notes on Taking the Course	出席が3分の2に満たない場合は単位を取得できない。 また、正当な理由なき遅刻及び退席が30分を超えた場合には、当該講義コマは欠席扱いとする。
その他 ／Others	講義スケジュールは、講師の都合などにより変更になる場合がある。 初回（10月5日）はオリエンテーションおよび第7回看護理論発表会のためのグループワーク決めを行うため、原則出席すること。 第6回（11月9日）は医学科・薬学部との合同授業であり、講義時間は9:30～12:00（予定）とする。 ※感染症対策の状況によって、スケジュール・開催方法が変更になる可能性がある。
実務経験と授業科目の関連性 ／Relationship between instructor's practical work experience and the course	看護の実務経験を有する複数の教員が基礎看護学を中心とする看護学概論について講義をする。また、現在臨床で看護実践を行なっている看護職者をゲスト講師に迎え、その経験を活かして講義をする。

※非常勤講師：中嶋 祥平（東京大学医学部附属病院 小児科病棟）  
浅野 朱里（東京大学医学部附属病院 A棟13階北病棟）

## 基礎看護学 I

講義題目 /Subtitle	基礎看護学 I
授業の目標、概要 /Course Objectives/ Overview	人を理解し援助するための知識・技術を学ぶことを目的とする。 患者に適切なケアを提供するための思考過程（看護過程）、患者を知る技術（問診、バイタルサイン）、患者をケアする技術（食事）、患者の環境を整える技術（感染管理、シーツ交換、環境整備）について、講義や演習を通して身につける。 また、病院見学実習を通して、患者の療養環境や看護の実際を見学し理解を深める。
授業のキーワード /Keywords	日本語用 /Japanese 看護、看護過程、看護方法論、看護技術 英語用 /English nursing, nursing process, methodology of nursing, nursing skill
授業計画 /Schedule	12月2日(木) 患者に適切なケアを提供するための思考過程：看護過程 12月9日(木) 安全な環境を整える技術：感染管理（東大病院 感染管理認定看護師） 12月16日(木) 患者から聞く技術：問診 12月23日(木) 患者を診る技術：バイタルサイン 1月6日(木) 早期体験実習（東大病院） 1月13日(木) 患者の回復力を妨げない技術：療養環境 1月20日(木) 患者の回復力を支援する技術：食事および試験 ※食事介助の演習を行うのでアレルギーがある学生は事前に相談すること。その他準備する物品は事前に通知する。 ※感染症の状況によって実習日時、内容が変更になる可能性がある。
授業の方法 /Teaching Methods	講義及び演習、実習を行う。 初回は医学部3号館2階S201、2回目以降は医学部5号館2階201で行う。 ※感染症の状況によって実習日時、内容が変更になる可能性がある。
成績評価方法 /Grads Evaluation	出席状況と課題とレポートおよび試験により評価を行う。
教科書 /Textbooks	各講義で適宜資料を配布する。
参考書 /References	ナーシングスキル(使用できるライセンスを付与する) 基礎看護技術 I・II(医学書院) 基礎看護技術 I・II(メヂカルフレンド社)
履修上の注意 /Notes on Taking the Course	看護学概論（A1ターム）の単位取得見込みを履修条件とする。 演習中心に行うため、正当な理由なき遅刻、欠席は認められない。 また、正当な理由なき遅刻および退出が30分を超えた場合には、当該講義コマは欠席扱いとする。 *第2回「感染管理」の履修をしていない者は、第5回「早期体験実習」への参加は認められない。 *第7回「食事」終了後、筆記試験を行う。
その他 /Others	授業スケジュールは講師の都合により変更になる場合がある。 演習を行うため、動きやすい服装（ハイヒール、サンダル、スカートは避けること）で出席すること。
実務経験と授業科目の関連性 /Relationship between instructor's practical work experience and the course	看護の実務経験を有する複数の教員が基礎看護学について講義・演習を行う。

※非常勤講師：平野 明博（東京大学医学部附属病院 感染対策センター主任副看護師長）

## 看護支援技術論

講義題目 /Subtitle	看護支援技術論	
授業の目標、概要 /Course Objectives/ Overview	看護支援技術論では、人を理解し援助するための知識・技術を学ぶことを目的としている。具体的には、フィジカルアセスメントの技術と療養生活における基本的な援助技術を習得する。	
授業のキーワード /Keywords	日本語用 /Japanese	看護,基礎看護技術,フィジカルアセスメント
	英語用 /English	nursing, basic nursing skills
授業計画 /Schedule	7月5日(月) ・看護過程 7月7日(水) ・フィジカルアセスメントの基礎 ・フィジカルアセスメント(呼吸系、循環系、消化系、泌尿器系) 7月9日(金) ・フィジカルアセスメント(運動系・神経系) ・移動・移乗・ポジショニング 7月12日(月) ・身体の清潔(清拭、更衣、洗髪、足浴) 7月14日(水) ・排泄ケア(導尿、床上排泄、陰部洗浄、おむつ交換) 7月15日(木) ・技術テスト ・基礎看護学実習オリエンテーション	
授業の方法 /Teaching Methods	講義および演習	
成績評価方法 /Grads Evaluation	出席、演習への取り組み、技術テストにより評価を行う。	
教科書 /Textbooks	各講義で資料を配布する	
参考書 /References	ナーシングスキル(通年使用できるライセンスを付与する) フィジカルアセスメント完全ガイド(学研) 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院) 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(メヂカルフレンド社)	
履修上の注意 /Notes on Taking the Course	履修条件：看護学概論、基礎看護学Ⅰ、ヘルスコミュニケーション学、病態疾患論、疾病論、免疫と生態防御、救急処置の全課題を終了し、単位を取得(見込み)していること。 演習中心に行うため、正当な理由なき遅刻、欠席は認められない。 演習の進行状況によっては、5限まで延長する可能性がある。 ※感染症対策の状況によってスケジュール・開催方法が変更になる可能性がある。	
その他 /Others	演習を行うため、動きやすい服装(ハイヒール・サンダル・スカートは避ける)で講義に出席すること。 秒針のある時計、聴診器を持参すること。 技術テストは、看護学実習用ユニフォームと靴を着用して行う。	
実務経験と授業科目の関連性 /Relationship between instructor's practical work experience and the course	看護の実務経験を有する複数の教員が看護技術について講義・演習を行う。	

## 基礎看護学実習

講義題目 /Subtitle	基礎看護学実習
授業の目標、概要 /Course Objectives/ Overview	病棟実習を行う。 病棟実習では、入院患者を受け持ち、看護過程の展開および看護ケアを実践する。それらを通し、病院において療養生活をしている患者を理解し、実践での看護過程の展開や基本的看護技術を臨床現場において適用できることを目標とする。
授業のキーワード /Keywords	日本語用 /Japanese 看護,コミュニケーション,基礎看護技術,臨床実習 英語用 /English nursing, basic nursing skills, communication, practicum, hospital
授業計画 /Schedule	7月16日(金)～7月29日(木)オリエンテーション・集中演習・病棟実習 ※感染症の状況によって実習日時、内容が変更になる可能性がある。
授業の方法 /Teaching Methods	東京大学医学部附属病院で臨床実習を行う。 ※感染症の状況によって実習日時、内容が変更になる可能性がある。
成績評価方法 /Grads Evaluation	出席状況、実習への取り組み、レポートにより評価する。
教科書 /Textbooks	なし
参考書 /References	ナーシングスキル(通年使用できるライセンスを付与する) エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図(中央法規) 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院) 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(メヂカルフレンド社)
履修上の注意 /Notes on Taking the Course	履修条件：看護支援技術論の単位取得予定者で看護科学専修の学生。
その他 /Others	詳細は、実習前オリエンテーションにて通知する。基礎看護学実習前に配布する看護学実習要綱を参照。
授業使用言語 /Language Used in Class	日本語
実務経験のある教員による授業科目 /Course conducted by instructor with practical work experience	該当科目である/ Applicable course
実務経験と授業科目の関連性 /Relationship between instructor's practical work experience and the course	看護の実務経験を有する複数の教員が臨床実習の支援等を行う。

### 1. 目的

病院において療養生活をしている患者を理解し、基本的看護技術を臨床現場において適用するとともに、看護過程について実践を通して学ぶ。

### 2. 目標

- (1) 病院という場、看護師の役割および病院での療養生活の概要についての理解を深める。
- (2) 担当患者の状態に応じて、適切な患者-看護師関係を築くことができる。
- (3) 健康障がいがある患者の日常生活にどのように影響しているかを観察し、考えることができる。
- (4) 担当患者の状態に応じて、日常生活の援助を実践できる。
- (5) 担当患者の状態をアセスメントし、看護上の問題および目標を明らかにすることができる。

### 3. 実習施設

東京大学医学部附属病院 (A棟13階北病棟)

### 4. 実習期間

2021年7月16日(金)～2021年7月29日(木)

## 5. 実習スケジュール

	7月12日(月)	7月13日(火)	7月14日(水)	7月15日(木)	7月16日(金)
午前	※学内演習				・全体オリエンテーション
午後	※学内演習				・病院オリエンテーション ・病棟挨拶、情報収集 ・教員同意書取得
	7月19日(月)	7月20日(火)	7月21日(水)	7月22日(木・祝)	
午前	・病棟オリエンテーション ・患者挨拶、情報収集	・病棟実習	・病棟実習	・学内	
午後	・病棟実習(～15時) ・学内 (15:30～) ※抗体検査	・病棟実習	・中間カンファレンス	・学内	
	7月26日(月)	7月27日(火)	7月28日(水)	7月29日(木)	
午前	・病棟実習	・病棟実習	・病棟実習 (病棟最終日)	・実習全体振り返り	
午後	・病棟実習	・病棟実習	14:00～15:00 病棟実習全体発表会 注1	・面談	

※ 背景が灰色の部分は病棟実習を行う日程。

注1：発表時間は35分間（各学生の発表7分、師長・実習指導者からの講評、教員・TAからの講評を含む）。

場所は入院棟B 第1会議室で行う。他教室の先生方も発表の見学に来られます。

## 6. 実習内容及び進め方

- ・病棟での実習時間は8:00～16:00とし、昼食のための休憩を1時間とする。
- ・各学生が一人の患者を受け持つ。
- ・実習指導者及び担当教員の指導を受けながら、日常生活援助を病棟での看護に組み入れて実践する。
- ・日常生活援助の計画については、日々の実習記録に記載し、毎日の実習開始時に実習指導者及び担当教員の指導を受ける。
- ・患者についての情報収集・アセスメントを行い、指導の下に患者の全体像を理解するとともに、看護問題を明確化し看護目標を立てる。
- ・看護目標にもとづき、看護計画を立案、実施・評価する。
- ・毎日の実習終了時に30分程度のショートカンファレンスを行い、その日に学んだことや、看護活動を展開する上で検討を要することについて実習指導者及び教員とともに話し合う。
- ・実習期間中の学内での学習には医学部3号館S201が使用可能である。
- ・7月16日(金)13時より安全対策に関する講義を受ける。場所：管理研究棟2階 第3会議室
- ・7月19日(月)抗体検査後は医学図書館等で受け持ち患者の病態の理解、看護計画立案に必要な資料を収集する。
- ・7月21日(水)午後は中間カンファレンスを行い、患者の全体像の整理、関連図の素案、看護計画立案などについて実習指導者及び教員とともに話し合う(20～30分/人)。学生は自身の受け持ち患者のカンファレンスを行い、可能であれば他の学生のカンファレンスにも同席する。指導を受けた内容は学生間で共有する。
- ・7月22日(木・祝)は終日(10時～16時)学内日とし、それまでの様子や指導内容、ケアの実施・評価を踏まえ、関連図、看護計画を修正する。  
集合時間：10時 場所：医学部3号館S201  
※祝日のため9時～11時、12時～13時以外の時間は3号館入口は施錠されている。
- ・7月26日(月)午前に週末の様子などを踏まえ、実習指導者及び教員とともに看護計画の修正を行

う。

- ・ 7月28日(水)午後に全体発表会を行う。病棟実習全体を通して患者との関わりや看護について学んだことを各学生が発表し、病院看護部・病棟師長・実習指導者・担当教員と共有する。

## 7. 病棟実習全体発表会について

### (1) 発表内容

- ・ 受け持ち患者を紹介するとともに、実施したケアとその評価や患者との関わりの変化など、テーマを決めて発表する。実習の感想を含めても良い。

### (2) 発表時間

- ・ 学生一人あたり7分程度

## 8. 評価方法

- ・ 出席、実習内容および実習記録、レポートによって総合的に評価する。

## 9. 提出物について

### (1) 実習記録

①毎日提出：「1日の行動計画」、「温度版」

②実習中に提出

- ・ 「基礎情報」、「薬一覧」：7月20日(火)の実習開始時
- ・ 「関連図」、「問題・課題リスト」：7月21日(水)の実習開始時
- ・ 「看護計画」：7月22日(木)の実習開始時

※記録ファイル・レポートには学生証番号、名前を記載する。

※①②を必要時修正加筆し、実習終了後に提出する。

提出期限：2021年7月29日(木)17:00

提出先：教員に直接提出

### (2) レポート課題

臨床実習で学んだこと(A4サイズ、2頁以内、表紙不要)

期限：2021年8月5日(木)17:00

提出先：ITC-LMS

※記録ファイル・レポートには学生証番号、名前を記載する。

## 10. その他

- (1) 全出席を原則、遅刻は厳禁とする。やむを得ない事情で欠席する場合は、指導教員に速やかに連絡を取ること。
- (2) 実習中は病院内の更衣室を借用し、実習衣、ナースシューズを着用する。ロッカーの鍵を借用するため紛失しないよう管理し、実習終了後、教員に返却すること。
- (3) 感染対策については別途指導する。

## 看護管理学

講義題目 /Subtitle	看護管理学	
授業の目標、概要 /Course Objectives/ Overview	看護管理学の概要と看護管理実践に必要な基礎的知識を習得する。さらに、看護管理の視点から看護の現場に起こる現象と、諸課題を理解し、それらに対し看護管理からの視点で対応策を検討できることを目的とする。具体的には、看護管理学概論、組織と人の管理、看護を提供する仕組み、キャリア、看護に関する政策、情報の管理、医療安全、医療や看護の質保証などについて学ぶ。	
授業のキーワード /Keywords	日本語用 /Japanese	看護管理、医療の質
	英語用 /English	nursing management, health care quality
授業計画 /Schedule	4月5日(月) 看護管理の基礎知識 4月12日(月) 組織と人/看護提供システム(看護サービス管理) 4月19日(月) 資源の管理/看護に関する政策動向/政策過程 4月26日(月) 質の管理・医療安全 5月10日(月) チームコミュニケーション 5月17日(月) 情報の管理 5月24日(月) キャリアと生涯学習・試験	
授業の方法 /Teaching Methods	講義およびディスカッション	
成績評価方法 /Grads Evaluation	出席および課題、ディスカッションへの参加、試験によりに評価する。	
教科書 /Textbooks	各講義で資料を配布する。	
参考書 /References	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践①看護管理(メディカ出版)	
履修上の注意 /Notes on Taking the Course	出席が3分の2に満たない場合は単位を取得できない。 正当な理由なき遅刻及び退出が30分を超えた場合には、当該講義コマは欠席扱いとする。  ※感染症対策の状況によって、スケジュール・開催方法が変更になる可能性がある。	
その他 /Others	感染症対策の状況によって、授業スケジュールや開催方法が変更になる場合があるので注意すること。	
実務経験と授業科目の関連性 /Relationship between instructor's practical work experience and the course	看護やマネジメントの実務経験を有する複数の教員が看護管理について講義を行う。	

## 看護管理学実習

講義題目 /Subtitle	看護管理学実習	
授業の目標、概要 /Course Objectives/ Overview	看護管理についての講義をふまえたうえで、病院管理・看護管理の実際について、管理者との話し合いを通して看護管理の視点を養う。 具体的には、組織理念と組織運営、ひとの管理、教育・キャリア発達支援、医療安全・質管理、情報共有と情報管理、看護提供システムに着眼し学ぶ。	
授業のキーワード /Keywords	日本語用 /Japanese	看護管理, 病院, 医療安全
	英語用 /English	nursing management, hospital, patient safety
授業計画 /Schedule	6月4日(金)、6月11日(金)、6月18日(金)、6月25日(金) 病院実習 7月2日(金) まとめの会(学内) ※感染症の状況によって実習日時、内容が変更になる可能性がある。	
授業の方法 /Teaching Methods	東京大学医学部附属病院、東京大学医科学研究所附属病院、聖路加国際病院で実習を行う。 ※感染症の状況によって実習日時、内容が変更になる可能性がある。	
成績評価方法 /Grads Evaluation	出席およびレポート、発表により評価する。	
教科書 /Textbooks	なし	
参考書 /References	資料は別途配布する。適宜「看護管理学」で使用した資料や参考書を参考にすること。	
履修上の注意 /Notes on Taking the Course	履修条件：看護科学専修の学生、S1 タームの「看護管理学」の単位取得見込みであること。 原則として全日程の出席が必要である。	
その他 /Others	詳細は、実習前オリエンテーションにて通知する。 看護学実習要綱も参照すること。 実習スケジュールは、実習施設の都合により変更になる場合がある。	
実務経験と授業科目の関連性 /Relationship between instructor's practical work experience and the course	看護の実務経験を有する複数の教員が基礎看護学・看護管理学に関連する内容について講義および学生との討議を行う。	

### 【目的】

病院管理・看護管理の実際について見学実習し、管理者との話し合いなどを通じて、病院管理・看護管理の諸課題への視点を養う。

### 【目標】

講義やこれまでの看護学実習をふまえ、よりよい医療・看護を提供していくための組織運営・管理の実際を見学実習する。

### 【実習全体スケジュール】

6月4日(金) 東京大学医学部附属病院 (1日目)	
8:45~16:10	看護部長からの講義、病院内の各部門見学
6月11日(金) 午前：学内演習(オンライン) 午後：東大医科学研究所附属病院(オンライン)	
9:00~10:00	東大病院(1日目)の実習から学んだこと・考えたことを発表 ・ 病院運営に関わる各部門・部署の「役割と機能」、「そこで働く専門職の役割と意識」、「質の管理方法」、「看護サービスとの連携」の着眼点でまとめる。 ・ 学生1名あたり発表7分+質疑応答3分 ・ 質疑応答を通して、学びやお互いの考えを共有する

10:00~11:45	東京大学医科学研究所附属病院についての事前学習 公開情報や文献で組織の概要、看護教育、医療安全・質管理、労務管理を調べ、実習で学びたいことをまとめる。
11:45~13:00	昼休憩
13:00~16:00	東大医科学研究所附属病院の実習（オンライン） 看護部長からの講義、医科研病院の看護教育、情報管理、医療安全対策に関する講義とディスカッション
6月18日(金) 東京大学医学部附属病院（2日目）	
8:30~16:00	部署での看護師長業務の見学
6月25日(金) 東京大学医学部附属病院（3日目）	
8:00~15:00	部署での総リーダー業務の見学、実習まとめの会
7月2日(金) 学内演習（オンライン）：看護管理学実習のまとめ	
9:30	出席確認
9:30~12:00	看護管理実習全体を通して、(1) (2) の学んだこと・考えたことを発表 (1) 看護管理学実習の着眼点として挙げた「組織理念と組織運営」「ひとの管理」「教育・キャリア発達支援」「医療安全・質管理」「情報共有と情報管理」「看護提供システム」のうち、いくつかのテーマについて看護管理学の講義をふまえ、実際に見学した内容を含めてまとめる。 (2) 看護管理の役割・機能を考える。 ・他学生の発表をきいてディスカッションを行い、お互いの考えを共有する ※スライドなどの資料を作成して、発表すること (資料作成準備時間を設ける。) ・学生1名あたり発表10分+質疑応答・ディスカッション5分(4名) ・教員からの講評
12:00~13:00	昼休み
13:00~14:30	看護管理学の研究紹介
14:30~16:00	レポート作成 ※他者の発表から得た学びも活かし、レポートを作成する

#### 【レポートについて】

(1) 東大医科研病院における実習で学んだこと及び感想 (A4サイズ1枚程度)

提出期限：6月18日(金) 17時

(2) 東大病院における実習で学んだこと及び感想 (A4サイズ1枚程度)

提出期限：7月2日(金) 17時

(3) 実習要綱 P6「3. 看護管理学実習の着眼点」の分類を使用し、講義・実習から学んだことを記述 (A4サイズ2枚程度)

提出期限：2021年7月5日(月) 17:00

(1)～(3)の提出先：ITC・LMS上

## 基礎看護学Ⅱ（選択科目）

講義題目 ／Subtitle	基礎看護学Ⅱ	
授業の目標、概要 ／Course Objectives/ Overview	基礎看護学および看護管理学に関するトピックスを学ぶことを通じて、看護実践や看護組織運営に必要な知識や視点を習得する。	
授業のキーワード ／Keywords	日本語用 ／Japanese	基礎看護、看護管理
	英語用 ／English	Theory and methodology of nursing , Nursing management
授業計画 ／Schedule	4月7日（水） 4月14日（水） 4月21日（水） 4月28日（水） 5月12日（水） 5月19日（水） 5月26日（水） ※講師の都合により時限が変更になる場合がある。	
授業の方法 ／Teaching Methods	講義およびディスカッション	
成績評価方法 ／Grads Evaluation	出席および課題、ディスカッションへの参加によりに評価する。	
教科書 ／Textbooks	指定の教科書はない。	
参考書 ／References	資料の配布、参考図書の紹介を行う。	
履修上の注意 ／Notes on Taking the Course	出席が3分の2に満たない場合は単位を取得できない。 正当な理由なき遅刻及び退出が30分を超えた場合には、当該講義コマは欠席扱いとする。  ※感染症対策の状況によって、スケジュール・開催方法が変更になる可能性がある。	
その他 ／Others	受講者数により講義内容を一部変更したり、開講時間を変更する場合がある。 受講を検討している場合は事前に（初回授業日前までに）連絡をすること。	
授業使用言語 ／Language Used in Class	日本語	
実務経験のある教員による授業科目 ／Course conducted by instructor with practical work experience	該当科目である／Applicable course	
実務経験と授業科目の関連性 ／Relationship between instructor's practical work experience and the course	看護の実務経験を有する複数の教員が基礎看護学・看護管理学に関連する内容について講義および学生との討議を行う。	

## 看護学概論Ⅱ (駒場：1・2年生対象)

講義題目 /Subtitle	看護学概論Ⅱ	
授業の目標、概要 /Course Objectives/ Overview	高度に医療技術が発展してきた現代社会では、疾患を抱えたまま生活する者は多くなり、また、従来の医学モデルでは解決できない、健康への様々なニーズが顕在化してきている。特に少子高齢化が高度に進んだ日本においては、この社会を看護学モデルとして扱い、新たな対処方法を構築することへの社会的期待が高まっている。つまり、生きることを支える学問である看護学は、あらゆる年代の個人から集団、地域社会を対象に、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛緩和等について、生涯を通して支援することが出来る。 本講義では、保健・医療・福祉の分野における臨床実践や研究、政策活動に至るまで、社会で広く活躍している看護のプロフェッショナルから実際の活動についてご講義いただき、少子高齢社会において看護学が担う役割と今後の看護学の発展について議論する。	
授業のキーワード /Keywords	日本語用 /Japanese	□間科学、実践科学、異分野融合、SDGs
授業計画 /Schedule	第1回 10月7日(木) 家族形成期を支える看護 池田 真理 教授 (家族看護学) 第2回 10月14日(木) 地域に住む高齢者を支える、支える人を増やす 松本 博成 先生 (地域看護学 D3) 第3回 10月21日(木) 認知症を抱えながら生きる人々を支える 五十嵐 歩 准教授 (成人保健・看護学) 第4回 10月28日(木) がんとともに生きる人々を支える ～皮膚ケアとアピアランスの視点から～ 玉井 奈緒 特任准教授 (社会連携講座イメージング看護学) 第5回 11月4日(木) 世界の人々の健康のために最新のエビデンスを明らかにするーコクランの挑戦ー 大田 えりか 教授 (聖路加国際大学) 第6回 11月11日(木) 精神障害のある人々を支える 澤田 宇多子 特任助教 (精神衛生看護学) 第7回 11月18日(木) 組織・システムの変革から看護提供を支える 木田 亮平 助教 (基礎看護学) 第8回 12月2日(木) 地域包括ケアと複線的キャリア 吉江 悟 先生 (一般社団法人 Neighborhood Care) 第9回 12月9日(木) 看護を届けるしくみをつくる 小林 康司 先生 (日本看護協会) 第10回 12月16日(木) 理工学的アプローチにより健康を支える 森 武俊 教授 (次世代知能科学研究センター/大学院情報理工学系研究科) 第11回 12月23日(木) 災害から立ち上がる人々を支える 相場 繁 先生 (医療創生大学看護学部) 第12回 1月6日(木) 看護とデータと情報システム 横田 慎一郎 先生 (東京大学医学部講師 兼 附属病院 企画情報運営部) 第13回 1月13日(木) コミュニティ介入により健康を支える 成瀬 昂 特任准教授 (Global Nursing Research Center)	
授業の方法 /Teaching Methods	医学部健康総合科学科 看護学教員等によるオムニバス形式の講義である。(講義中にディスカッション等を取り入れる場合がある。) オンライン (Zoom) で実施する。 オンライン授業 URL は毎回変わるので、直前に確認すること。 配布資料は事前に ITC-LMS の「教材」にアップするので、前もってダウンロード・印刷する等、見ることができるようしておくこと。 出血とレポート提出は ITC-LMS で行う。	
履修上の注意 /Notes on Taking the Course	講義や課題において配慮が必要な場合には事前に申し出ること	

※ 当教室からは 11月18日(木)、木田亮平助教が講義を担当した。

## 大学院講義

看護管理学／看護体系・機能学分野は、看護管理学特論Ⅰ、看護管理学特論Ⅱ、看護体系・機能学Ⅰ、看護管理学・看護体系機能学ゼミを担当している。今年度は看護管理学特論Ⅰ、看護管理学・看護体系機能学ゼミを開講した。

### 看護管理学特論Ⅰ

講義題目 ／Subtitle	医療・看護における組織現象を理解するための看護管理学の主要概念を学ぶ	
授業の目標、概要 ／Course Objectives/ Overview	看護管理学とは、看護の力を効果的に患者に届け社会に活かす方法を探求する学問であり、看護の視点や価値観を組織活動に活かすことを追求する学問である。本科目では、看護管理学において重要な概念である「組織」と「人」を理解する基盤となる理論を学び、さらに組織における人の行動に影響を与える「環境」について学ぶ。授業においては、ケースを用いて組織開発のアプローチを探求するワークを行う。また、医療システム社会工学、法律、建築、行政、病院経営の各分野で活躍する講師からの講義を受け、ディスカッションを行う。これらを通じて看護管理学の概要及び医療・看護で生じ得る組織現象を理解し、組織に働きかける際、あるいは、組織を研究する際に必要となる知識やパースペクティブを涵養することを目的とする。	
授業のキーワード ／Keywords	日本語用 ／Japanese	看護管理, リーダーシップ, マネジメント, 組織開発, 質管理, 職場環境
	英語用 ／English	nursing administration, leadership, management, organizational develop
授業計画 ／Schedule	<p>4月7日 組織論、リーダーシップ論 (武村)</p> <p>4月14日 職能団体の仕事 (日本看護協会 教育研究部 小澤茉祐先生)</p> <p>4月21日 医療社会システム工学による看護の臨床知の可視化と質保証 (東京大学大学院工学系研究科 水流聡子先生)</p> <p>4月28日 建築・環境デザインから医療・看護を変える (工学院大学 笥淳夫先生)</p> <p>5月12日 組織の力を引き出す: テッセイの事例を用いたワーク (武村)</p> <p>5月19日 病院経営の現場から (東京ベイ・浦安市川医療センター 井出恵伊子先生)</p> <p>5月26日 チーム医療の成果評価・医療看護イノベーション(東京情報大学 松下博宣先生)</p>	
授業の方法 ／Teaching Methods	担当教員及び非常勤講師による講義ならびにディスカッション、および、ケースを用いたワーク	
成績評価方法 ／Grads Evaluation	出席、ディスカッションへの参加、毎回の講義後レポート及び最終レポートにより総合的に評価する	
教科書 ／Textbooks	各講義で資料を配布する。ケースワークに使用するケースは事前に資料を貸し出す	
参考書 ／References	特になし。各講義で参考図書の紹介を行う	
履修上の注意 ／Notes on Taking the Course	受講希望者は4月7日までにメールで連絡すること。講義教室が医学部3号館 S102 に変更になっています。	
その他 ／Others	感染症対策の状況によって、授業スケジュールや開催方法が変更になる場合があるので注意すること。	
授業使用言語 ／Language Used in Class	日本語	

## 抄読論文

看護管理学演習Ⅰ／Ⅱ・看護管理学実習Ⅰ／Ⅱ 令和3年4月～令和4年3月  
毎週火曜日 10:00～12:10

- 4月20日 田中 論文紹介・クリティーク：Moriya, E., Nagao, N., Ito, S., & Makaya, M. (2020). The relationship between perceived difficulty and reflection in the practice of discharge planning nurses in acute care hospitals: a nationwide observational study. *Journal of clinical nursing*, 29(3-4), 511-524. <https://doi.org/10.1111/jocn.15111>
- 5月11日 高橋 論文紹介・クリティーク：McCabe, T. J., & Sambrook, S. (2013). Psychological contracts and commitment amongst nurses and nurse managers: A discourse analysis. *International journal of nursing studies*, 50(7), 954-967. <https://doi.org/10.1016/j.ijnurstu.2012.11.012>
- 5月25日 蔣 論文紹介・クリティーク：Wiechula, R., Conroy, T., Kitson, A. L., Marshall, R. J., Whitaker, N., & Rasmussen, P. (2016). Umbrella review of the evidence: what factors influence the caring relationship between a nurse and patient?. *Journal of Advanced Nursing*, 72(4), 723-734. <https://doi.org/10.1111/jan.12862>
- 6月8日 石井 論文紹介・クリティーク：Skela - Savič, B., & Lobe, B. (2020). Differences in beliefs on and implementation of evidence - based practice according to type of healthcare institution—a national cross - sectional study among Slovenian nurses. *Journal of Nursing Management*. <https://doi.org/10.1111/jonm.13234>
- 6月22日 井上 論文紹介・クリティーク：White, J. H. (2021). A Phenomenological Study of Nurse Managers' and Assistant Nurse Managers' Experiences during the COVID - 19 Pandemic in the United States. *Journal of Nursing Management*. <https://doi.org/10.1111/jonm.13304>
- 7月6日 澤田 論文紹介・クリティーク：Labrague, L. J., & De los Santos, J. A. (2020). Association between nurse and hospital characteristics and organisational silence behaviours in nurses: A cross - sectional study. *Journal of Nursing Management*, 28(8), 2196-2204. <https://doi.org/10.1111/jonm.13101>
- 1月25日 櫻井 論文紹介・クリティーク：Javed, B., Naqvi, S. M. M. R., Khan, A. K., Arjoon, S. & Tayyeb, H. H. (2019). Impact of inclusive leadership on innovative work behavior: The role of psychological safety. *Journal of Management & Organization*, 25(1), 117-136. <https://doi.org/10.1017/jmo.2017.3>
- 2月15日 櫻井 論文紹介・クリティーク：Rathert, C., Ishqaidef, G. & Porter, T. H. (2022). Caring work environments and clinician emotional exhaustion: Empirical test of an exploratory model. *Health care Manage Review*, 47(1), 58-65. <https://doi.org/10.1097/HMR.0000000000000294>

## 看護管理学/看護体系・機能学ゼミ

令和3年4月6日～7月13日 毎週火曜日 9:00-12:00

令和3年9月7日～令和4年3月15日 毎週火曜日 9:00-12:00

令和3年9月29日～11月17日 毎週火曜日 13:00-15:00

(令和3年10月5～11月16日 毎週火曜日 13:00-15:10, 予演は日時を固定せず開催)

4月6日	オリエンテーション	
	井上 真帆	研究報告
4月13日	石井 馨子	研究報告
	高橋 好江	研究報告
4月20日	澤田 菜	研究報告
	田中 慎吾	論文抄読
4月27日	蔣 思思	研究報告
	田中 慎吾	研究報告
5月11日	石井 馨子	研究報告
	高橋 好江	論文抄読
5月18日	井上 真帆	研究報告
	田中 慎吾	研究報告
5月25日	澤田 菜	研究報告
	蔣 思思	論文抄読
6月1日	蔣 思思	研究報告
	高橋 好江	研究報告
6月8日	田中 慎吾	研究報告
	石井 馨子	論文抄読
6月15日	石井 馨子	研究報告
	井上 真帆	研究報告
6月22日	澤田 菜	研究報告
	井上 真帆	論文抄読
6月29日	蔣 思思	研究報告
	高橋 好江	研究報告
7月6日	田中 慎吾	研究報告
	澤田 菜	論文抄読
7月13日	市川 先生	研究報告
	木田 先生	研究報告
	磯部 先生	研究報告
9月7日	澤田 菜	研究報告
	蔣 思思	研究報告
9月14日	井上 真帆	研究報告
	石井 馨子	研究報告
9月21日	高橋 好江	研究報告
	田中 慎吾	研究報告
9月28日	澤田 菜	研究報告
	蔣 思思	研究報告
10月5日	井上 真帆	研究報告
	石井 馨子	研究報告
10月12日	田中 慎吾	研究報告

10月19日	澤田 菜	研究報告
	蔣 思思	研究報告
10月26日	井上 真帆	研究報告
	田中 慎吾	研究報告
11月2日	高橋 好江	研究報告
	田中 慎吾	研究報告
11月9日	澤田 菜	研究報告
	蔣 思思	研究報告
11月16日	井上 真帆	研究報告
	石井 馨子	研究報告
11月30日	高橋 好江	研究報告
	田中 慎吾	研究報告
12月7日	澤田 菜	研究報告
	蔣 思思	研究報告
12月14日	井上 真帆	研究報告
	石井 馨子	研究報告
12月21日	高橋 好江	研究報告
	石井 馨子	研究報告
1月11日	澤田 菜	修士論文発表会予演
	田中 慎吾	博士論文発表会予演
1月18日	澤田 菜	修士論文発表会予演
	高橋 好江	研究報告
1月25日	蔣 思思	博士論文発表会予演
	櫻井 真秀子	論文抄読
2月8日	石井 馨子	博士論文審査会予演
	高橋 好江	研究報告
2月15日	井上 真帆	研究報告
	櫻井 真秀子	論文抄読
2月22日	論文執筆日	
3月1日	論文執筆日	
3月8日	井上 真帆	研究報告
	田中 慎吾	博士課程振り返り
	澤田 菜	修士課程振り返り
3月15日	石井 馨子	博士課程振り返り
	蔣 思思	博士課程振り返り
	高橋 好江	博士課程振り返り

## 学位論文

### 博士論文

船越 千佳. 組織再編時の意思決定参加と看護職の職務心理状態

田中 慎吾. 病棟看護師による退院患者受け入れ先施設スタッフへの視点取得－尺度開発と関連要因の検証－

蔣 思思. **Changes in Career Adaptation and Career Adaptability among Undergraduate Student Nurses: The Effects from the Quality of Clinical Learning Experiences** (看護大学生におけるキャリア適応とキャリア・アダプタビリティの変化－実習経験の質による影響－)

石井 馨子. 看護職の **Evidence-based practice** の継続及び内在化と集団の組織学習活動との関連 - 組織学習モデルのフィードバック過程の適用 - (合格見込)

高橋 好江. 仕事・組織パーパス結合感 (**Perceived Connectedness between Work and Organizational Purpose**) の概念構築－病院看護職を対象とした測定尺度の開発と関連要因の検証－ (審査済)

**修士論文** (提出：令和4年1月6日／発表会：令和4年1月20日・21日)

(学位取得：令和4年3月24日)

澤田 菜. 「**Perceived impact of nurse turnover on the organization: A Delphi study on managers of nursing** (看護職の離職が組織に及ぼす影響の認識：看護管理者を対象としたデルファイ研究)」

## 教員の活動

武村雪絵

特別講演・教育講演・研修

1. 社会医療法人財団池友会福岡和白病院. 九州山口カマチグループ看護部. 「看護管理に活かすコンピテンシーの活用と人材育成」.福岡和白リハビリテーション学院. 2022.3.2.
2. 秋田県立衛生看護学院. 秋田県階層別研修「管理者のコンピテンシー・モデルの活用」. オンライン. 2022.3.2.
3. 戸田中央医科グループ. 「コンピテンシーモデルを用いた自己成長と他者育成のスキルの基礎を学ぶ」. オンライン. 2022.2.18.
4. 一般社団法人日本看護管理学会. オンラインセミナー第3回「新型コロナウイルス感染症対応から学ぶ看護マネジメント」. 横浜パシフィコ. 2021.11.27.
5. 独立行政法人国立病院機構. 認定看護管理者教育課程サードレベル. 「組織における倫理的課題、倫理的課題に対する組織的対応」. オンライン. 2021.11.19.
6. 一般社団法人日本看護管理学会. オンラインセミナー第2回「新型コロナウイルス感染症対応から学ぶ看護マネジメント」. 横浜パシフィコ. 2021.11.6.
7. 東京都ナースプラザ. 令和2年度東京都看護職員定着のためのアウトリーチ型定着促進支援「アウトリーチ型支援合同研修Ⅱ」. 東京都看護協会会館. 2021.11.1.
8. 公益社団法人沖縄県看護協会. 「ミッションマネジメントと組織開発～対話に基づく組織開発～」. オンライン. 2021.10.29.
9. 公益社団法人沖縄県看護協会. 「コンピテンシーモデルを活用した看護管理～人材育成のヒントを学ぼう～」. オンライン. 2021.10.28.
10. 大阪大学医学部附属病院. 「看護管理に活かすコンピテンシー（第2回）」. 大阪大学医学部附属病院. 2021.9.25.
11. 公益社団法人東京都看護協会. 認定看護管理者教育セカンドレベル. 人材管理Ⅱ. 東京都看護協会会館. 2021.9.16.
12. 公益社団法人宮城県看護協会. 認定看護管理者教育課程セカンドレベル. 人材管理Ⅱ. 「人材を育てるマネジメント」. オンライン. 2021.9.10.
13. 一般社団法人日本看護管理学会. オンラインセミナー第1回「新型コロナウイルス感染症対応から学ぶ看護マネジメント」. 横浜パシフィコ. 2021.8.28.
14. 公益社団法人山口県看護協会. 認定看護管理者教育セカンドレベル. 質管理Ⅱ. 「サービスの質保証」. オンライン. 2021.8.25.
15. 公益社団法人東京都看護協会. 「コンピテンシー・モデルを用いて自己成長と他者育成のヒントを学ぶ」. 東京都看護協会. 2021.8.10.
16. 公益社団法人医療・病院管理研究協会. 「ミッションマネジメント—人と組織の可能性を引き出す組織運営」. オンライン. 2021.8.6.

17. 熊本大学病院. 看護部研修「ミッションマネジメント」. オンライン. 2021.7.27, 2021.12.10.
18. 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター. 認定看護管理者教育課程サードレベル. 組織管理論Ⅲ. 2021.6.26.
19. 東京都ナースプラザ. 令和2年度東京都看護職員定着のためのアウトリーチ型定着促進支援「アウトリーチ型支援合同研修Ⅰ」. 東京都看護協会会館. 2021.6.17.
20. 公益社団法人愛知県看護協会. 認定看護管理者教育課程サードレベル. 組織管理論Ⅲ. 2021.5.14, 2021.5.21.

#### 非常勤講師

藍野大学. 認定看護管理者教育セカンドレベル. 「人材管理Ⅱ 人を育てるマネジメント」. 2021.8.21.

#### 社会活動

文部科学省高等教育局医学教育課技術参与（看護教育）

国立大学保健医療学系代表者協議会看護学分科会 大学院教育検討委員会委員

東京都ナースプラザ 東京都看護職員定着促進のための巡回訪問事業 事例検討会講師

公益財団法人日本医療機能評価機構 教育研修事業運営委員会委員, 教育研修企画部会委員

公益社団法人日本看護科学学会 代議員, 研究・学術推進委員会委員

一般社団法人日本看護管理学会 将来構想委員会委員

一般社団法人医療福祉建築協会 理事

一般社団法人日本医療安全学会 理事

看護理工学会 評議員, 編集委員会委員

日本看護評価学会 評議員

市川奈央子

なし

木田亮平

#### 社会活動

東京都ナースプラザ「看護管理の基本」ファシリテーター

東京都看護協会「研究論文の書き方」講師

磯部環

#### 社会活動

東京都ナースプラザ「看護管理の基本」ファシリテーター

## 研究室業績（2021年1月～2022年3月）

### 原著論文・研究論文

1. Ishii K, Takemura Y, & Ichikawa, N. Relationships between the components of nurse managers' transformational leadership and organizational learning subprocesses in a hospital ward: A cross-sectional study. *Journal of Nursing Management*. 2021; 29(4); 672-680.
2. Inoue M, Kunie K, Takemura Y, Ichikawa N, & Kida R. The influence of learning circumstances and on-the-job opportunities for professional growth on perceived person-environment fit among hospital nurses: A longitudinal study. *Journal of Nursing Management*. 2021; 29(4); 776-784
3. Saiki M, Kunie K, & Takemura Y. Nursing assistants' desired roles, perceptions of nurses' expectations, and effect on team participation: A cross-sectional study. *Journal of Nursing Management*. 2021; 29(5); 1046-1053.
4. 木田亮平, 武村雪絵. 看護職員の勤務環境改善に向けた各医療施設の取り組み：複数事例研究. *日本看護管理学会誌*. 25(1); 20-33.
5. 駒形万里絵, 武村雪絵, 市川奈央子, 竹原君江, 國江慶子. 日本語版職務特性尺度の開発：看護職における信頼性・妥当性の検証. *日本看護管理学会誌*. 2021; 25(1); 12-19
6. Piao X, Tsugawa S, Takemura Y, Ichikawa N, Kida R, Kunie K, Managi S. Disability Weights Measurement for 17 Diseases in Japan: A Survey Based on Medical Professionals. *Economic Analysis and Policy*. 2021; 70; 238-248
7. Takahashi Y, Kunie K, & Takemura Y. The lasting impacts of work-attendance decisions of health care employees under uncertainty: Japanese hospital nurses' experiences outside the evacuation zone after the nuclear accident. *Journal of Organization and Discourse*. 2021; 2(1); 9-19.
8. Tanaka S, Kunie K, Takemura Y, Ichikawa N, & Kida R. Exploring nurses' clinical reasons for bed transfers in acute care wards: An observational study. *Journal of Nursing Management*, 2021; 29(7); 2297-2306.
9. Kawaguchi S, Takemura Y, Takehara K, Kunie K, Ichikawa N, Komagata K, Kobayashi K, Soma M, & Komiyama C. Relationship between teams' Leader-Member Exchange characteristics and psychological outcomes for nurses and nurse managers: A cross-sectional study in Japan. *Sage Open Nursing*, 2021; 7: 1-11.
10. 高橋好江, 武村雪絵, 市川奈央子. 仕事におけるエンゲージメントの概念整理と今後の方向性：組織で働く看護職の特性を踏まえて. *日本医療・病院管理学会誌*. 2021; 58(4): 96-104.
11. Tanaka S, Kunie K, Takemura Y, Ichikawa N, & Kida R. The patterns and reasons for changing bed placement in multi-bed rooms in acute care settings. *Journal of Society of Nursing Practice* 2021; 33(3): 11-23.
12. 木田亮平, 國江慶子, 佐々木美奈子, 堀込由紀, 米倉佑貴, 武村雪絵. 病床規模別の看護師採用状況および採用活動の実態：全国調査. *日本医療・病院管理学会誌*. 2021; 58(4): 119-130.
13. Ishii K, Takemura Y, Ichikawa N, Kunie K, & Kida R. The relationship between nursing groups' organizational socialization and nurses' perception of organizational learning subprocesses: A cross-sectional study in hospital wards. *Team Performance Management*. 2021.
14. 佐々木菜々代, 井部俊子, 笠松由佳, 倉岡有美子, 澤邊綾子, 武村雪絵, 吉田千文, 手島恵. コンピテンシーを基盤とした看護管理者研修プログラムの評価（第二報）—受講者のコンピテンシー発揮の様相—. *日本看護管理学会誌*. 2021; 25(1): 225-235.
15. 井上真帆, 國江慶子, 武村雪絵, 市川奈央子, 木田亮平. 「知覚された多側面の個人-環境適合」を測定する日本語版適合感尺度の開発：看護職における妥当性と信頼性の検証. *日本看護科学学会誌*. (印刷中)
16. 佐伯昌俊, 武村雪絵, 國江慶子. 看護職者と看護補助者が共に看護補助者役割の認識を共有する介入プログラムの開発と評価. *日本看護科学学会誌*. (印刷中)
17. 渡邊龍之介, 木田亮平, 武村雪絵. 労働状況および偏りのある勤務割り振り, 勤務日・休暇のコントロール感不足とバーンアウトおよび身体愁訴との関連 —交代制勤務に従事する看護職を対象と

したオンライン調査—。日本看護科学学会誌。(印刷中)

18. Okuyama A & Takemura Y. Key elements for monitoring nursing care: an integrative review. *The Japanese Journal of Quality and Safety in Healthcare*. (in press)
19. Kida R & Takemura Y. Working conditions and fatigue in Japanese shift work nurses: A cross-sectional survey. *Asian Nursing Research*. (in press)

### 総説・報告

1. 磯部環. 人と組織を動かす活力となる部署でのビジョン共有に向けて—病棟看護師長のビジョンを明らかにする質的研究—. *看護管理*, 2021; 31 (1); 12-17.
2. 武村雪絵. 「ミッション・ビジョン・バリュー」を組織の動力源とするために. *看護管理*, 2021; 31 (1); 18-22.
3. 武村雪絵, 國江慶子, 磯部環, 高橋好江. 【座談会】個人や組織が潜在的に持つ力を解明する質的研究—研究成果の臨床マネジメントへの活かし方を考える—. *看護管理*, 2021; 31 (1); 24-31.
4. 高島千恵, 大橋真由美. 聞き手 國江慶子, 武村雪絵. 【インタビュー】各組織の「めざす姿」の実現を支援するアウトリーチ型支援事業—看護管理者に伴走する「就業協力員」の活動の実際. *看護管理*, 2021; 31 (8); 670-678.
5. 國江慶子, 武村雪絵. 研究を通して捉えた事業と支援の特徴 2—支援員の支援と看護管理者の経験. *看護管理*, 2021; 31 (8); 656-663.
6. 國江慶子, 武村雪絵. 研究を通して捉えた事業と支援の特徴 1—めざす姿の実現に向けた組織運営への支援の構造. *看護管理*, 2021; 31 (8); 656-663.
7. 武村雪絵. 看護管理者の職場環境と支援. *看護管理*, 2021; 31 (8); 646-649.
8. 井上真帆, 武村雪絵. EAFONS 2021 への参加とオーラル発表. *看護研究*, 2021; 54(5): 424-430.
9. 武村雪絵, 井上真帆, 市川奈央子, 木田亮平, 小柳礼恵, 池崎澄江, 池田真理. 「新型コロナウイルス感染症に対応する看護職員の確保及び最適なマネジメント検討に向けた実態調査研究」より. *看護*, 2021; 73 (13): 64-68.
10. 武村雪絵. 3-1. 新興感染症流行時の看護組織マネジメントのポイント. *看護* 2022年3月臨時増刊号, 2022; 74(4): 124-130.
11. 舩越千佳. 3-3. 病棟再編における看護管理者の役割. *看護* 2022年3月臨時増刊号, 2022; 74(4): 138-142.

### 学会発表

1. Tanaka S, Kunie K, Takemura Y. Dynamics of annual bed transfers and factors affecting bed transfers: A single case study. the 24th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) conference. Apr 15-16, 2021, Philippine.
2. Inoue M, Kunie K, Takemura Y. The relationship between management factors and needs-supplies fit among hospital nurses: A cross-sectional study. the 24th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) conference. Apr 15-16, 2021, Philippine.
3. Ishii K, Takemura Y, Ichikawa N. Nursing groups' interpretation activities in hospital wards when implementing evidence-based practice institutionalized by the hospital: A qualitative study using Organizational Learning Model. the 4th Annual UK Implementation Science Research Conference. Jul 15-16, 2021, Online
4. 池崎澄江, 武村雪絵, 井上真帆, 木田亮平, 市川奈央子, 小柳礼恵, 池田真理. COVID-19 クラスターが発生した福祉施設における対応と派遣された看護職の実践—半構造化面接を用いた質的研究—. 2021. (第25回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8月28日・29日)
5. 井上真帆, 武村雪絵, 木田亮平, 市川奈央子, 小柳礼恵, 池崎澄江, 池田真理. COVID-19に対応した宿泊療養施設での看護業務および求められる人材—半構造化面接を用いた質的研究—. 2021. (第25回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8月28日・29日)
6. 市川奈央子, 武村雪絵, 井上真帆, 木田亮平, 小柳礼恵, 池崎澄江, 池田真理. COVID-19受入れ施設およびクラスター発生施設での看護職への支援体制—半構造化面接を用いた質的研究—. 2021. (第25回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8月28日・29日)
7. 武村雪絵, 市川奈央子, 井上真帆, 木田亮平, 小柳礼恵, 池崎澄江, 池田真理. COVID-19受入れ施設およびクラスター発生施設での看護職員確保と配置—半構造化面接を用いた質的研究—. 2021. (第25回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8月28日・29日) 【いいね賞】

8. 奥山絢子, 武村雪絵, 佐々木美奈子. 専門・認定看護師の配置と化学療法時の予防的制吐療法実施率. 2021. (第 25 回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8 月 28 日・29 日)
9. 磯部環, 武村雪絵, 國江慶子. 職場移動における看護師のエンプロイアビリティ (雇用される能力) —採用側が認識する構成要素—. 2021. (第 25 回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8 月 28 日・29 日)
10. 木田亮平, 武村雪絵. 交代制勤務看護職の疲労感に対する労働状況の閾値の同定: 横断研究. 2021. (第 25 回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8 月 28 日・29 日)
11. 丸山菜, 小柳礼恵, 武村雪絵. 看護職の離職が組織に及ぼす影響に関する文献検討. 2021. (第 25 回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8 月 28 日・29 日) 【いいね賞】
12. 小口紗穂, 武村雪絵, 市川奈央子, 木田亮平, 小柳礼恵. 部署のチームワーク行動・メンバー構成と看護の質・職務満足・組織コミットメントとの関連: 看護職を対象とした縦断調査の二次解析. 2021. (第 25 回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8 月 28 日・29 日)
13. 寿々木剛志, 木田亮平, 武村雪絵, 市川奈央子, 國江慶子, 小柳礼恵. 短時間勤務看護職員が認識するダイバーシティ風土と心理的エンパワメントの関連: 仕事に関するコミュニケーションの媒介効果. 2021. (第 25 回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8 月 28 日・29 日)
14. 長岡紗規子, 市川奈央子, 武村雪絵. 異動・転職を経験した病院看護職の組織の受け入れ体制の違い. 2021. (第 25 回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8 月 28 日・29 日)
15. 船越千佳. 【論文表彰講演】病棟再編時の体験パターンによる看護職の分類とその特徴—クラスター分析から. 2021. (第 25 回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8 月 28 日・29 日)
16. 高橋好江. 【シンポジウム「危機による分断を防ぐために ～どのように組織を支援するか～」シンポジスト】危機状況下の組織と働く人を理解するために—東日本大震災原発事故後の病院看護師の職場体験からの示唆—. 2021. (第 28 回日本産業精神保健学会, オンライン, 2021 年 11 月 20 日・21 日)
17. 船越千佳, 武村雪絵, 市川奈央子, 國江慶子. スタッフ看護職の意思決定参加程度評価ツールの開発: 組織再編時における信頼性・妥当性の検証. 第 41 回日本看護科学学会学術集会, 2021 年 12 月 4・5 日, オンライン.
18. 寿々木剛志, 木田亮平, 武村雪絵. 看護組織向け日本語版ダイバーシティ風土尺度の信頼性・妥当性の検証. 第 41 回日本看護科学学会学術集会, 2021 年 12 月 4・5 日, オンライン. 【最優秀演題口頭発表賞】
19. 市川奈央子, 武村雪絵, 高橋好江. 病棟における看護職のプロフェッショナルリズムと看護の質の関連: 横断研究. 第 41 回日本看護科学学会学術集会, 2021 年 12 月 4・5 日, オンライン.

## 研究助成など

### 研究助成)

1. 市川奈央子 (研究代表者). 看護職のプロフェッショナルリズム育成プログラムの開発に向けて. 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 若手研究(B), 平成 29 年度~令和 3 年度.
2. 武村雪絵 (研究代表者). コンピテンシーモデルを用いた 3 層リフレクションによる看護管理者の能力開発プログラムの評価: 準実験研究. 平成 30 年度公益財団法人三菱財団社会福祉事業・研究助成, 平成 30 年 10 月~令和 2 年 9 月.
3. 武村雪絵 (研究代表者). 看護職の労働時間・勤務環境の改善に向けた調査研究. 令和元年度厚生労働行政推進調査事業費 (地域医療基盤開発推進研究事業). 令和元年~2 年度.
4. 武村雪絵 (研究代表者). 新型コロナウイルス感染症に対応する看護職員の確保及び最適なマネジメント検討に向けた実態調査研究. 令和 2 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 (厚生労働科学特別研究事業). 令和 2 年度.
5. 武村雪絵 (研究代表者). 総合的評価による新しい退職指標の開発: 看護管理質指標としての妥当性・実用性の検証. 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C). 令和 2 年度~令和 5 年度
6. 磯部環 (研究代表者). 職場移動における看護師のエンプロイアビリティ: 採用で重視される要素の施設区分による違い. 日本看護管理学会研究助成, 令和 2 年 1 月~令和 3 年 10 月.

7. 武村雪絵（研究代表者）．看護職のエンプロイアビリティ及びコンピテンシーに関する研究．株式会社ファーストスター・ヘルスケア共同研究．令和 2 年 2 月～令和 5 年 3 月．
8. 磯部環（研究代表者）．職場移動における看護師のエンプロイアビリティ：看護師の認識に関する調査．令和 3（2021）年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究活動スタート支援．令和 3 年度～令和 4 年度．
9. 市川奈央子（研究代表者）．後期キャリア看護職のプロフェッショナルリズム向上とキャリア継続の支援策構築．科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）若手研究．令和 3 年度～令和 5 年度．

奨学金・奨励金)

1. 石井馨子（博士課程 3 年）．ソーシャル ICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム（GCL）奨励金
2. 田中慎吾（博士課程 3 年）．ソーシャル ICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム（GCL）奨励金

## 教室の出来事

2020年4月2日 新年度が始まりました

教職員5名、修士課程大学院生1名、博士課程は5名の計11名で新年度をスタートしました。

2021年6月30日 オンラインで近況報告会を開きました

客員研究院の先生方や教室のOB・OGの方々も交え、近況報告会をオンラインで実施しました。お互いの現在の活動や近況を報告しあい、研究や卒業後の活躍を知る、とても良い機会となりました。また、思い出話にも花が咲き、楽しい時間を過ごしました。

2021年9月28日 オンライン歓迎会を開催しました

9月1日より特任助教として新たに長井聡子先生が着任され、歓迎会を開催しました。COVID-19の影響によりオンライン開催となりましたが、客員研究員の先生にもご参加いただき、楽しい会となりました。

2022年1月21日 オンライン新年会兼修論お疲れ様会を開催しました

修士論文審査会の打ち上げを兼ねてオンラインで新年会を行いました。今年度は1名の院生が修士論文審査会で発表しました。

2022年3月1日 オンライン博論お疲れ様会を開催しました

博士課程3年の院生4名が博士論文を執筆しました。博士學位論文審査会を終え、博士課程修了者が出ることをお祝いしました。

2022年3月24日 卒業式・学位授与式が行われました

大学院の学位記授与式が行われ、当研究室所属の修士課程2年1名、博士課程3年2名の院生が参加しました。研究室メンバーでも新たな門出をお祝いしました。

2022年3月25日 オンラインで感謝の会を行いました

オンラインで感謝の会を開きました。OGや客員研究員の先生方にもご出席いただきました。今年度は、教室主任の武村雪絵准教授、特任助教の長井聡子先生がご退任され、博士課程の学生4名と修士課程の学生1名が4月から新たな場所に移られます。お互いに感謝を伝えあい、楽しい時間を過ごしました。

2022年3月31日 教員2名が退任しました。